



# いまこそ集落創生

第14回 下中田地区



㊤いわゆる「前坂」から望む下中田地区 ㊤(右から)中田振興委員会が行う高堂山登山。2年程休止しているが復活が待たれる／見事に再建を果たした下中田八幡神社本殿。柿崎棟梁が研究を重ね、建立に到った

町中心部から国道13号線を北上すること約6km。住民に「前坂」と呼ばれる中田地域の入口に位置する坂道から、下中田地区は一望できます。正面には中田のシンボルである高堂山、東側の小高い山には旧中田小学校、手前には八幡神社と素晴らしい眺めが広がります。忘れもしない平成22年8月――。下中田住民の拠り所である八幡神社が、火災により焼失しました。当時を振り返り、栗田仁区長は「まさかという思いだった。日が経つにつれて、貴重なものを失ったと痛感した」と今でも悔しさをにじませます。無念の焼失から7年が経過した平成29年9月、町内外から集まった多くの寄附や支援を基に、地元大工の柿崎棟梁が現在の本殿を建立。失った期間を取り戻すように、八幡神社例大祭が盛大に復活しました。

もう一つの拠点である旧中田小学校。平成26年3月に借しまれながら閉校を迎えました。現在、地区に住む5人の小学生は金山小学校に通っています。「覚悟はしていたが、登下校の姿が見られなくなった寂しさはある。しかし、子どもたちのことを考えると良い判断だったと思っている。それは地域全体の総意だ」と区長はある意味で前向き。これからを支える子どもたちの健やかな成長を、地域は望んでいます。

「地域運営組織に期待。地域の生活実態や構成が変化しているのだから、地区運営も変わって当然。町に管理を戻した中田小の活用もまだ諦めていない」と、未来を想像するように区長は話します。悩みもがきながらも、奮闘する住民の姿が下中田にはありました。

## 編集 幸記

▼新元号「令和」がスタートしました。広報かねやまも本号が令和第一号です。記念すべき号なので、特に表紙写真は迷いました。令和を推そう！という案もありましたが、金山に春を告げる「大堰鯉の放流」に決定。新たな時代の幕明けにぴったりだと思えます。

▼平成に発行された広報かねやまを見返しました。時代ごとのデザインの変化を実感。今風の見たい目を追求しつつも「伝わる」ことが第一」という広報紙の本質は忘れずに令和も制作にあたります。(うま)

## 金山町の人口は、5,483人 (3月現在)

	男性	2,667人 (-14)
	女性	2,816人 (-19)
	世帯数	1,763世帯

▼3月の異動

出生	3人
死亡	11人
転入	8人
転出	33人